

# 【環境会計論】 丸山 佳久 ゼミ



演習テーマ：環境会計の考え方をういて、地域活性化をビジネスプランとして具体化させる

## <活動内容>

被災地の復興や中山間地域における活性化(地方創生)が課題となっています。地域にある“資源”(農林漁業・自然・伝統・文化等)を活かして、できるだけ補助金に頼らずに地域活性化を図るためには、地方自治体や企業、NPO 法人等が連携して、新たなビジネスモデルを作っていかなければなりません。

本ゼミは、資料を用いて地域活性化に取り組む先事例を調査したり、フィールドワークとして対象地域の風土や経済・社会特性を実地調査したりします。そして、過疎化・高齢化の実態を踏まえ、地域にある“資源”を活用し、他地域の先進事例等と組みあわせビジネスプランを具体化させます。ビジネスプランの具体化にあたっては、売上のあがり方やコストのかかり方、地域的サプライチェーン・産業クラスターを通じた経済効果・社会効果等に対して、経営・会計手法を用いて分析を行ないます。これは、地域管理や資源管理を対象とした環境会計、すなわちメソ会計の実践です。

そして、ビジネスプランを机上の計画で終わらせるのではなく、企画書を作り、関係する地域の企業や自治体、住民等に対してプレゼンテーションを行って協力を取り付け、イベントの実施や新商品の開発・販売等、企画の商業展開まで行うようにします。

## <ゼミ紹介>

本ゼミは、フィールドワークを積極的に行っています。具体的には、対象地域の風土や経済・社会特性等を文献調査した上で、岩手県遠野市及び紫波町において、農林業体験・6次産業化体験を行ったり、グリーンツーリズムの調査として農家民泊を実施したりします。文献調査及びフィールドワーク調査を踏まえて、富士ゼロックス・遠野みらい創りカレッジや紫波みらい研究所等の支援を受けて、地域活性化のビジネスプランを作成します。そして、関係する地域の企業や自治体、住民等とコラボし、イベントの実施や新商品の開発・販売等を行います。

2016 年度は、遠野木工団地(森林のくに遠野協同機構)と道の駅 遠野風の丘の協力を受けて、遠野の木と森の文化を伝えるスギのマクラを試験製造し、道の駅で大好評のうちに完売させました。2017 年度は、遠野風の丘と遠野まごころネット等の協力を受けて、東日本大震災の被災地の復興を意図して、大槌復興米を用いたアイスの試食会イベントを実施しました。また、“いい写”の撮影スポットを紹介する観光パンフレットを作成し、盛岡駅や花巻駅等で配布しました。2018 年度は、産直ともちゃんとコラボし小友まつり(遠野市)に出店して地域食材の新しい味わい方(スムージー)を提案したり、遠野風の丘(道の駅)で試食会イベントを開催して地域の食文化を反映したB級グルメを提案したりしました。B級グルメのプログラムは11月の産業まつり(遠野市)に出店するように展開予定です。

2018 年夏の小友まつり出店の様子が遠野テレビで紹介されました。遠野テレビのHP から動画ニュースを選択して、8/28 放映分をご覧ください(5分25秒前後から)。

<http://www.tonotv.com/html/catv/streaming/news.html>

これら計画の作成から実施に至るまでの取り組みを、画像や映像資料等を用いてレポートや PPT 資料としてまとめ、学内の研究報告会や、自治体やご協力を頂いた企業等に向けて説明する発表会を複数回にわたって開催しました。2016 年度及び 2017 年度は、11 月に富士ゼロックス復興推進室の主催で、東京大学・横浜国立大学・法政大学等と共同で、企業人やコンサル、大学・自治体関係者に対して発表しました(2018 年度も実施予定)

ゼミでは、毎年3人~5人のチームに分かれ、ビジネスプランの企画・実践に取り組んでいます。各学年の具体的なビジネスプランのテーマは以下のとおりです。

### 2016年度生

1. 遠野の木と森の文化を伝える新商品の開発(スギのマクラ、スギのオガ粉のサシェ、フローラルウォーター)(遠野市)
2. 被災地の心の復興を図る新商品の開発(大槌町)
3. 狩猟とマタギの伝統と文化を新たな観光資源として提案するグリーンツーリズムの開発(遠野市)
4. 段階的な農業体験によって新規就農を支援するプログラムの開発(紫波町)

### 2017年度

1. 地域の食文化を踏まえた B 級グルメの開発(ジンギスカンを使ったトルティーヤ)(遠野市)
2. 遠野の木と森の文化を伝える教育プログラムの開発(遠野市)
3. 特産品を用いた被災地と都市住民との心の交流を図るプログラムの実施(大槌町)
4. “いい写”の撮影スポットを紹介する観光パンフレットの作成と配布(盛岡市・花巻市・紫波町)

### 2018年度

1. 地域食材の新しい味わい方の提案と魅力発信(遠野市)  
産直ともちゃんとコラボし小友まつり(遠野市)に出店して地域食材の新しい味わい方(スムージー)を提案
2. 地域の食文化を踏まえた B 級グルメの開発(ラム肉とパドロンを用いたグルメ)(遠野市)  
遠野風の丘(道の駅)で試食会イベントを開催したり産業まつりに出店したりして地域の食文化を反映したB級グルメを提案
3. グリーンツーリズムを通じた森林の新しい楽しみ方の提案(ワークショップの開発)(遠野市)
4. ふるさと納税を促進する魅力的な返礼品の開発(紫波町)です。